

米国ではバラク・オバマ大統領が再選された。中国では習近平氏が総書記に就くと思われる。米国の大統領の任期は4年、中国の国家主席は5年である。日本は安倍晋三氏以降1年ごとに首相が交代している。日本の政治の安定のためには、首相公選制(憲法改正を伴わない制度で)と3年程度の任期を全うできる制度を早く設けるべきである。恐らく12月には民主党政権は下野しているであろうが、政治主導を声高に掲げ政権交代したことは何だったのか、その功罪を見極めるにはもう少し時間が必要である。次に来る第三極政権も長続きはしないであろう。建築基本法制定に期待しているが、政権が安定しない以上、建築基本法制定のための議員連盟も立ち上がらないし、法案作成の機運もない。建築基準法の抜本改正がなされないままに徒に月日が経ち、今のままの状態で定着することを大変恐れている。

本誌11月号に古川保氏が示したように「エネルギーの使用の合理化に関する建築主等及び特定建築物の所有者の判断の基準案」に対するパブコメが行われた。省エネ法の告示の改正のため建築関係者でさえほとんどの人が関心を持っていなかったが、今後の建築を大きく左右し、再び官製不況をもたらす可能性を内在している深刻な出来事である。

なんの疑いもなく、建築士は「CASBEE戸建て」の講習を受講し、建築業者は「住宅省エネルギー技術 施工技術者講習」を受講している。今度の省エネ法の改正が重大な意味を持っていることも伝えられていないし、さらに法改正がされる前に当然のごとく先行して講習が行われていることに違和感を覚える。

建築基本法は正面から建築やまちのあり方を議論して、国民の理解を得ながらまとめようとしているが、改正省エネ法は建築関係者のほとんどが知らないままに進められている。今度の改正は、次世代省エネ基準を2020年までに義務化するという内容である。断熱性能の指標に現

改正省エネ法と地球温暖化ムラ

江原幸志

行の熱損失係数(Q値)を廃止し、建物の外皮の平均熱貫流率(U値)を採用するというのも裏の目的には都合良いと思われる。消費者には設備機器の更新費用や断熱改修の費用負担がどれほどか、改正による社会への影響についてはまったく告知されていない。

改正省エネ法は、福島原発事故によってエネルギー政策の見直しが急務となり、省エネ規制の強化が当初より前倒しで行われている。表向きは省エネ推進、温暖化防止のためのCO₂削減ということになっているのでどこからも異論はないように思われている。むしろ環境保護団体からは早く改正してほしいという要望も出ている。

これまでも散々指摘してきたが、伝統木造の将来を真剣に考えている関係者以外は建築界からはまったく反応がないので、もう一度指摘しておきたい。

新築住宅の高断熱義務化は省エネにならない

まず大前提として、今度の高断熱の義務化によって省エネになることはない。

全館冷暖房を前提とする高断熱はエネルギー消費を増大させてしまう。地域区分が5から8に細分されるが、高断熱の義務化のターゲットになっている関東以西の緯度はスペインや北アフリカと同じ緯度である。審議会委員は先進国で断熱規制が緩いのは日本だけと主張するが、他の先進国(ほとんどが寒冷地)と同様の規制をする必要はない。この地域で高断熱を義務化したり、ゼロエネルギー化したりすることは、今までの生活スタイルを強制的に変えることであり、窓を小さくして風通しを悪くすることはエネルギー面にも人の健康面においてもデメリットが大きい。

一次エネルギーを計算してみても建物の高断熱化による省エネ効果は日本全体の1%削減にも満たない。経産省は日本全体の住宅の断熱化に72兆円かかると試算していたが、費用対効果は低く、また投資効果が低い断熱改修をする

家庭はほとんどいない。

CO₂削減においては何の意味もない。地球のCO₂濃度は0.04%でCO₂は地球温暖化にほとんど関係していない。地球温暖化には太陽活動や水蒸気の方がはるかに影響が大きい。しかも太陽活動は地球寒冷化の時代に入ることを予兆している。なぜCO₂がターゲットにされたかは、社会的にCO₂排出量が把握しやすいのと無尽蔵にあるCO₂は取引に利用しやすいためである。

仮に計算してみると、日本のCO₂排出量は世界全体の4%で、日本の家庭の冷暖房によるCO₂排出量は日本全体の排出量の2.4%であり、その半分の削減できたとしても1.2%なので高断熱化によるCO₂削減が地球温暖化にどの程度関係するか小学生でもわかる。

これを日本の一流大学の教授や政府機関でまじめな議論をしているのかと思うと悲しくなる。しかも、小学生から大学院生までに真実であるかのように教えていることに罪悪感を持たないのであろうか。先の技術者への講習では、木と木を狂いなく納める職人に対して断熱材の入れ方やテープの貼りを、税金を使って教えているのである。建築主に対しては断熱リフォームの説明の際に、改修費用に対しての光熱費削減効果は言えないので「断熱工事をすると暖冷房の効きがよくなる」という詐欺まがいの説明をするように指導している。審議会委員の発想はマンガとしか言いようがない。

どうしてこのような詐欺に近いことがまかり通るのであろうか。

「低炭素社会に向けた住まいと住まい方推進会議」の茅陽一委員長はエネルギー・原子力政策懇談会(旧称・原子カルネッサンス懇談会)のメンバーであり、IPCC国内連絡会座長を務める。『日本原子力学会誌』2012年8月号の巻頭言で「原子力と自動車の安全性」を比較して、自動車事故より原子力事故の方がコストは安いので止める必要はないというほど原発推進に熱心である。CASBEEの開発者の村上周三氏はIPCC国内連絡会のメンバーであり、断熱改修工事の必要性和CASBEEの普及を大臣に説き、普及のための広報を行ってきた。他の委員は環境コンサルタントだったり、工事業界や設備機器・建材業者の代表である。法律の専門家と設計の専門家がいますが、議事録の中では汲みされているとは言い難い。

改正省エネ法の経緯や審議会の構成メンバーを見ると、江澤誠著の『脱「原子カムラ」と脱「地球温暖化ムラ」』で書かれていることと見事に符合する。筆者は一技術者として原発事故に

よる犠牲も津波による犠牲も人災ということを肝に銘じている。原発を廃止すること、国費の無駄遣いを阻止すること、消費者に誠実であること、日本の文化を守ることのために、建築士の良心として今日まで起きていることを建築界の方々と共有したいと思っている。もし2007年の建築基準法改正による官製不況を検証していれば、社会資本整備審議会の委員は責任をとって、二度と審議会の委員に就くことはなかったであろう。委員の構成が変わっていれば、低炭素社会(地球温暖化対策のためのCO₂を削減する社会)という荒唐無稽な発想を国民が押し付けられることもなかったであろう。審議会委員の人選を官僚任せにしない「審議会革命」を日隅一雄弁護士は訴えながら急逝したが、今後日本が道を誤らないために、日隅弁護士の遺志を受け継いでいきたいと思う。

- 茅陽一(Wikipedia)
http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8C%85%E9%99%BD%E4%B8%80
- 『日本原子力学会誌』2012年8月号
http://www.aesj.or.jp/atomos/tachiyomi/2012-08mokuji.pdf
- 家庭からの二酸化炭素排出量(2010年度)
http://www.jccca.org/chart/chart04_06.html
- 民生用エネルギー消費と消費者の行動パターン
http://www.env.go.jp/council/06earth/y060-70/mat04.pdf
- エコハウスは健康ハウス。本当ですか?
http://www.challenge25.go.jp/knowledge/future/teitanso/naruhodo/03.html
- まえたけだよりweb版
http://ameblo.jp/maetake-diary/entry-10996017724.html
http://ameblo.jp/maetake-diary/entry-10995034766.html
- 『エネルギーの使用の合理化に関する建築主等及び特定建築物の所有者の判断の基準案に対する意見』
http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=155120719&Mode=0
- 低炭素社会に向けた住まいと住まい方推進会議
http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_house_tk4_000023.html
- 第5次評価報告書(AR5)に向けてのIPCC国内連絡会準備会メンバー一覧
http://www.gef.or.jp/ipcc/KokunaiRenrakukai/AR5_renrakukai_junbikai_member.html
- 『脱「原子カムラ」と脱「地球温暖化ムラ」』
http://www.shinhyoron.co.jp/cgi-db/s_db/kensakutan.cgi?j1=978-4-7948-0914-8
- 『審議会革命』日隅一雄著
http://www.gendaishokan.co.jp/goods/ISBN978-4-7684-5601-9.htm

えはら・こういち | 木の建築設計

1962年東京都生まれ。1987年東京理科大学建築学科卒業。1996年木の建築設計設立